

## Peppolが輝かせる「主役」たち～株式会社旭屋、デジタルインボイスの更なる実践～

2026年1月23日、デジタル庁は、株式会社 旭屋（福島県浪江町）専務取締役 田河朋裕氏との間で、同社での“Beyond e-invoice”の実践と同社の取引先におけるデジタルインボイスの取組について、意見交換を行いました。

2025年6月、同社におけるデジタルインボイスの「実践」についてお話を伺いました。その際、「デジタルインボイスを実際に経験することが何よりも大事」とのメッセージをいただきました。

今般、田河氏からは「『半数程度（75件/月間）の請求をデジタルインボイスに切り替えた』という実態に変化はない。要すれば、デジタルインボイスでの請求が安定してきた」といった現状の報告がありました。そのうえで、「会計などのバックオフィス業務だけでなく、製造現場のデジタル化、例えば、製品の温度管理などの場面でのデジタルツールの活用も積極的に進めている」といった、“Beyond e-invoice”の取組についても言及がありました。



田河専務取締役（写真左）と株式会社旭屋の皆様

さらに、株式会社旭屋からデジタルインボイスを受領している同社の得意先の皆様状況として「デジタルインボイスの受領はできているものの、現状、その自動処理も含め、デジタルインボイスのメリットを十分に享受できていない」といったリアルな実態の紹介も田河氏よりありました。

